

JPLフォーラム2018報告書

八戸薬剤師会 千葉恵子

2月11日(日)、世間では3連休の真ん中の日、東京最高気温15℃の中、東京都四谷「主婦会館プラザエフ」に於いて、JPL(Japan Pharmacist Ladies)フォーラム2018が開催されました。日本全国、各都道府県から2名ずつの参加で、青森県からは福田ひかる先生(青森)、千葉恵子(八戸)2名が参加しました。

今回のテーマは『あい、きぼう、これからの医療と薬剤師～主役は女性です～』で、岩本研日本薬剤師連盟幹事長、近藤由利子日本女性薬剤連盟会長、とかしきなおみ環境副大臣のご挨拶の後、日本薬剤師連盟石井甲一副会長「医薬分業の歴史と直近の政治課題」と本田あきこ副会長「あい、きぼう、これからの医療と薬剤師」の講演がありました。

後半は「本田あきこさんをどう盛り上げていくか」のSGD(スモールグループディスカッション)を行いました。

私たちのグループは東北6県のグループ11名で、政治と薬剤師の関わり、薬剤師議員の大切さをどのように伝えるか、どうやって関心を持ってもらうか、本田あきこさんの知名度をあげるにはどうしたら良いか?等について話し合い、以下のような意見が出ました。

【明日からできること】

- 本田あきこメールマガジンへの登録
- FB「本田あきこの部屋」のフォロー
- 各薬局でスタッフ向けにポスターを貼る。
- 白衣にファーマ君バッジを付ける。
- SNS等の活用
- Something Orange オレンジを身に着け意識を高める。研修会、フォーラム、キャラバン時。
- TPL ラインを作成。

【今後地域で検討・実施していくもの】

- 地域での研修会、総会等の前後で、コメントを添えてDVDを上映し、本田あきこさんをPRする。(DVDは調剤報酬改定説明会等に間に合うように各都道府県薬連に配布予定。)
- 薬剤師と政治のかかわり、自分の生活に結びつけることの大切さを多くの薬剤師に理解してもらう機会を作る。
- 女性議員を推すのは女性の力が必要。人と人とのつながる場、顔の見える関係づくり。
- 若手薬剤師(非会員、病薬会員含む)や、薬学生への院外処方史の歴史と政治の大切さを伝える機会を作る。
- 後援会名簿→確実な名簿、少数記載の名簿を作成し、確実に提出してもらう。
- 東北女性フォーラムを企画する。10月頃を予定。
- 県、支部単位での女性フォーラムの開催。
- キャラバン(青森県は10月予定)訪問時は多くの薬剤師に本人に会って頂けるよう準備する。
グループ討議の後は、各グループより発表があり、「参加者が地元に戻ったら全員、自分自身

が「本田あきこ」として顔売りを、アピールする！」という発表が印象深く感じました。

薬剤師は女性が6割を占める職種で、子育てしながら、家庭を守りながら、地域住民に良質な医療を提供することで、社会に貢献していかなければなりません。薬剤師がより良い環境で活躍し、未来をどう創造していくのか、熱い討議や、情報交換が行われました。

薬剤師は、法律や制度の下で仕事ができています。国の政策で大きな影響を受けることもあり、国政に薬剤師の声を届けることが必要です。薬剤師が、より地域住民の健康に貢献できるように、また、将来の薬剤師のためにも、本田あきこさんを支援していきましょう。

